

クリスマスを迎える喜び

皆さんは今年のクリスマスをどのように迎えますか？
幼稚園から初等部、中等部、高等部、大学の皆さんに、
2023年のクリスマスを迎えるいまの想いや喜び、
クリスマスの思い出を綴っていただきました。

幼稚園教諭 迫田 敏幸

打ち捨てられることはない

人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる。

あらゆる場所で人と人が傷つけあっている現状があります。進むべき方向が分かっているのに、そうできずに苦しんでいる方が多くいらっしゃいます。主は例外なくこの世界の全ての人を救う為に独り子であるイエス様を私達に与えてくださいました。それは暗闇によって消えることのないまことの光であり喜びです。しかし今、その喜びを喜びとして感じられずに暗闇の中にいるような気持ちで苦しんでいる方が、あなたの隣にもいるかもしれません。私は今、幼稚園教諭として園児らと共に祈る生活を主によって与えられています。私達の祈りは主が必ず聞いていてくださり、相応しい時に相応しい形で用いてくださる。「祈ることしかできない」のではなく「祈ることができる」のです。世界中全ての方の心を私は知り得ることはできません。だからこそ主がその一つひとつの心を切り捨てることなく救ってくださることを願い祈り続け、キリストの御降誕を待ち望みたいと思います。



幼稚園の園児たちによる クリスマスの制作品

(22年度の作品より)



幼稚園教諭 赤坂 洋子



献金箱

毎年、第1アドヴェントの日
に手作りの献金箱を持ち帰
ります。家庭で毎日祈りつ
つ、その箱に貯めた献金は、
クリスマス礼拝でお捧げし
ます。年長児がお捧げして
いる献金箱は、子どもたち
が藍染めした布を箱に貼
っています。

お家の方へのプレゼント

子どもたちは大好きなお家の方へプレゼントを作ってお渡します。



〈年中児 羊毛石鹸〉

ふわふわの羊毛フェルトを
石鹸で丁寧にこすって作りました。



〈年少児 クリスマスツリー〉

木の板に、釘でフェルト片を
打って飾りました。

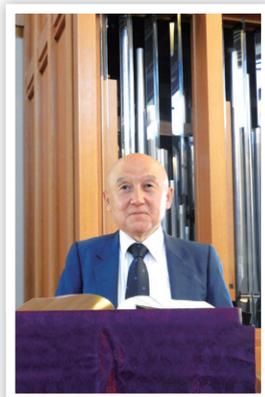
初等部教諭 柚村 満

クリスマスの思い出

i Feliz Navidad ! (クリスマスおめでとうございます)

私は、1985年のクリスマスをスペインのバルセロナで迎えました。友人のスペイン人の家に滞在させていただき、親族が集まるクリスマスイブの食事に招かれました。スペイン料理をいただきながらスペイン語、カタルーニャ語、ドイツ語、英語、日本語などで会話が進み、とても明るくにぎやかで、楽しい時間が流れていきました。食事が終わり、バルセロナの小さなカトリック教会でミサを守りました。聖書のみ言葉を聴き、讃美歌を歌い、神様にクリスマスの喜びと感謝を共に祈りました。ミサを守った後、教会の地下室でクリスマスパーティがありました。優しいシスターに出会い、セビージャの踊りを教えてもらい一緒に踊りました。聖書に「私達の国籍は天にある」というみ言葉がありますが、宗派や、国や

言語が違って、神様にあって兄弟姉妹であり、共にイエス様の誕生を祝える恵みに感謝した忘れられないクリスマスの思い出として今も心の中に残っています。 **Dios es amor.**



5年 内田 実那

サンタさんだけではないクリスマス



私は、サンタさんからプレゼントをもらうことがクリスマスの一番の楽しみだった。

しかし初等部に入ってクリスマスを違う角度から見て、楽しみが増えた。12月のアドヴェントからクリスマス礼拝、ページェント、そして家族でお祝いするクリスマス。年末までイベントがいっぱいだ。そういうことの意味を初等部で教えてもらい、体験させていただいたと思っている。

初めてのページェントのオーディションの話聞いた時は、あまりよくわからず、何だか恥ずかしいような気がしてオーディションを受けなかった。でもページェントで見たマリア様役の上級生の神々しさ、聖歌隊の歌声にすっかり憧れて、いつかあの舞台に立ちたいと思うようになった。(今はまだその勇気がないのだけれど……。) 点火祭で、ツリーに灯りが灯ると私の心もきらきらした気持ちになる。こんな12月を過ごせてイエス様と深いつながりを持つことができるクリスマス。街がクリスマスのオーナメントで溢れても、私はその意味をちょっと知っている、という特別な気持ちになるだろう。



3年 大倉 悠輔

羊飼いと博士



僕は幼稚園から中部まで、カトリック系とプロテスタント系の二つの教派の学校に通っていました。聖書にはイエス・キリストが生まれてくるまでに羊飼いたちと東方の博士たちが、それぞれメシアの星の導きに従ってエルサレムへと向かいます。当時の羊飼いとというのは、羊を危険から守り放浪生活を行っていたのですが、語学の勉強など全くできず知識も乏しかったため、彼らは社会の最下層の人々として見下されていました。

東方の博士たちは、先ほどの羊飼いと対極に位置するような存在でした。富と知識を兼ね備え、メシアの星が現れた際にはその意味について深く考える思慮深い人たちでした。

羊飼いたちはルカの福音書に、東方の博士たちはマタイによる福音書に書かれています。聖書は、当時の社会の対極的な立場を書き表すことで、イエス・キリストが貧しい者にも富んだ者にも、知識の乏しい者にも豊かな者にも等しく接したことを意味

しているのではないかと思います。

これから迎えるクリスマスにあたり、世界中にいる全ての人々に平和と希望があふれることを祈りたいと思います。





3年 井上 莉緒

クリスマスの意味

クリスマスはイエスが生まれたことを祝う日。それを意識し始めたのは中等部に入ってからです。今まではプレゼントをもらったり、贈り合ったりする日という印象でした。しかしそのイメージが変わった聖書箇所があります。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」（ヨハネによる福音書3：16）。これは神が罪深い人間たちを愛し、罪を赦し神の子とするためにイエス・キリストというプレゼントを与えてくださったのだという意味です。つまりクリスマスは神に対して、「私たちのためにイエスを与えてくれてありがとうございます」と伝え、喜び合う日ということです。

私はこの話を読んで、クリスマスのプレゼントの文化がなぜ生まれたのか、クリスマスの本当の意味を知ることができました。それと同時にイエスが世界の人々から慕われているということもわかりました。

今現在、厳しい環境下に置かれ辛く苦しい思いをしている方がいます。その方たちも神がイエスという神のひとり子を与えてくださったことを喜び、共に祝えることを願っています。



高等部教諭 中久木 眞治

あなたはひとりぼっち、ではない

私には山下達郎の名曲「クリスマス・イブ」を聴くたびに思い出す辛い思い出がある。少年の日、私の家族は高齢で体調も思わしくなかった母方の祖母と同居していた。もともと私は九段に住んでいたが、そのため通い慣れた母教会の九段教会を離れ、母と祖母と私で地元の教会に車で通っていた。なので教会学校の生徒さんとも交流がなく、教会に行っても大人の礼拝にばかり出ることになってしまっていた。

その一番寂しい時がクリスマスだった。同い年の子どもたちが、とても楽しそうに交わりをしている。しかし私は孤独。「クリスマス」だったのだ。

祖母逝去後、母教会へ戻ったが今度は私を知らない人が増え、私はすっかり気が塞いでしまい、大事なクリスマスでさえ教会に通うのをやめようかと思ったほどだった。

だが、私は教会へ通うことをやめなかった。心がなぜか癒され励まされ、「もう少し頑張ってみようかな」という気持ちにされたのだ。

私は気が付いた。私はひとりぼっちではなかった。主イエス・キリストがそこにいてくださったのである。そして聖霊様のお導きが、常に私を教会に向けてくださっていたのだ。

今年も点火祭に一人向かうあなた。「私がいるではないか！」と、ほら、イエス様が語りかけてくださっている……

3年 石原弘



クリスマスに思うこと

2021年のクリスマス、僕は交換留学中で米国にいました。ホストファザーは牧師で、イブの礼拝に日本語でいいのでお祈りをしてほしいと僕に言いました。聖壇にて祈りを捧げました。もちろん日本語なので僕が言ったことなど誰もわかるはずがないのですが、皆一生懸命耳を傾け、最後に「アーメン」と唱和してくれました。そして礼拝後は沢山の人から感謝の言葉をいただき、クリスマスは、人種や言語の壁を越えて祝え、幸せな気持ちになれる日だと実感しました。しかし、同時に本当にそうだろうかという疑問もよぎりました。1か月ほど前に教会のボランティアでホームレスシェルターに行き、食事の提供をした時のことを思い出したのです。その方達は、ドラッグ依存や、人種差別によって職を失い、その場凌ぎの生活を強いられました。その方々に、自分のようなクリスマスはやってきたのだろうか、と。それから2年、戦争が勃発するなど世界は様変わりしています。それでも全ての人々に神様が共に居て祝福を与えてくださるクリスマスが来るように、僕は願ってやみません。



地球社会共生学部教授 村上 広史

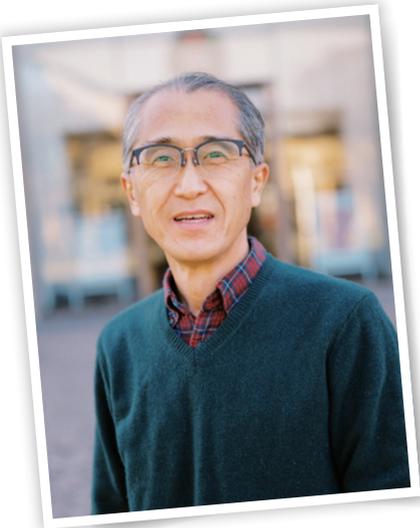
闇に輝く「まことの光」

以前、同じ教会にいらしたアメリカ人宣教師が、クリスマスになると口癖のように話しておられたことがある。「Xmas はだめですよ。これはキリストに X (バツ) をしてるから、キリストがいないことをお祝いする祭りの意味になるでしょ。クリスマスはイエス・キリストが中心だから Christmas と書きなさい。」

Xmas の X はギリシャ語のキリストの頭文字である。しかし、日本ではこの X が間違いや不要という意味でも用いられる。そこで、警鐘を鳴らしたかったのだろう。長年日本で伝道し、闇の力を身をもって感じておられた方の言葉として重く受け止めたのを覚えている。

一方、闇にこそ「まことの光」は輝く。ちょうど夜番の羊飼いや東方の博士が見た時のように。闇の力が大きな日本にあって、青山学院は、そこに集う人々の心に「まことの光」であるキリストを輝かせるために創設された。クリスマスを機に、学院を通して多くの方々がキリストに出会い、キリストにある喜びに満たされるようになることを祈りたい。

Merry Christmas!





理工学部情報テクノロジー学科3年 沈 禱 苴

今年のクリスマスは…

今年のクリスマスは何をしますか？ 家で休む方・ひとりまたは家族で過ごす方・好きな人と共に時間を過ごす方・お仕事がある方などなど。クリスマス礼拝に行く方もいるでしょう。

2020年。私は、兵役中にクリスマスを迎えました。暗く寒く寂しいクリスマスでした。ルカによる福音書2章8・9節に「羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が現れ、主の栄光が周りを照らした」という箇所があります。当時、夜通し国を守っていた私に主の天使は現れませんでした。兵役という環境と現状に、喜んでクリスマスを迎えられませんでした。

その時、私が喜んでしたのは「イエス様が生まれた日」ではなく「世間の明るく華やかで楽しい休日」だったのかもしれないと気づかされました。皆さんはどうでしょうか。

今、改めてイエス様の誕生の意味に目を向けていきたいです。暗闇を照らし、人々の希望となり、低い場所から十字架の計画を持って生まれた方。

このことを忘れず、感謝して喜んでクリスマス（イエス様の誕生日）を祝っていきたくと願います。

World Vision Japan プロジェクトリーダー 西島 恵 (校友)

クリスマスの思い出～愛を生きる

私にとってクリスマスと言えば、貧困層支援のために携わったフィリピンとバングラデシュでのことを思い出します。

私は約6年間、フィリピンにて、小さな NGO のボランティアとして貧困層支援に携わりました。フィリピンでのクリスマスは賑やかで喜び溢れる楽しい時でした。クリスマスの1ヶ月前から様々な準備に追われます。クリスマスの9日前から明け方のミサ(朝3時半)が始まり、町中に教会の鐘の音が響きます。人々は暗い夜道、教会へと向かい、心を準備します。そうして盛大なクリスマスの祝いがやってきます。教会では夜中24時に喜びの賛歌をもって賛美を捧げます。心地よい疲れとともに、イエス様の誕生という喜びを町全体で祝う時でした。

フィリピン滞在中のある年、クリスマスの1ヶ月ほど前、フィリピンの現地スタッフと言い合いをしました。私は自分の方が正しいという思いから苦しみに苛まれました。しかし、クリスマスの日、十字架にかけられるために生まれてきてくださったイエス様の愛、神様の愛を感じ、自分の考えを脇に置き、愛を生きることが必要で

あると感じました。フィリピンの方々には日本から来た私を兄弟姉妹として受け入れ、沢山の愛を与えてくださっていたにも関わらず、私の心は頑なでした。私は自分の過ちを受け入れ、言い合いをした人に謝り、仲直りをしました。その後、その人はあることから問題



写真2点:バングラデシュの現地スタッフと共に

を抱え、誰からも相手にされなくなりました。そんな時、私はその人の傍にいて、支えることができました。愛を生きることの喜びを学ばされた出来事となりました。

また、バングラデシュに駐在していたある年、クリスマス

を前に私には不安がありました。その年、クリスマスの直前にイスラム教の重要なお祝い(犠牲祭)があり、私は誰がいつ休むか、活動が止まらないかと思案していました。しかし、バングラデシュのスタッフは、私の不安をよそに休みのスケジュールを立ててくれていました。バングラデシュの大半はイスラム教徒ですが、キリスト教徒、仏教徒、ヒन्दウー教徒がいます。イスラム教の祝日はイスラム教徒が休みを取り、イスラム教徒以外の人働き、クリスマスはキリスト教徒が休みを取り、キリスト教徒以外の人働き、1月には仏教徒が休むなどと順番に休むように組み立てられていました。とても自然にそれぞれの信仰を尊重していることが分かる出来事でした。

今でもバングラデシュの支援活動に従事していますが、毎年、クリスマス日には、バングラデシュから、キリスト教徒以外の人からも「クリスマスおめでとう!」「神様の祝福がありますように」というメッセージが届きます。互いの信仰を大切にしようという彼らの具体的な愛の行いに、クリスマスこそ愛と喜びを分かち合う時であることを思い出されます。世界の平和はこんな小さな愛の行いから始まるのではないかと思います。神様の愛を生きる者となれるよう祈り努力していきたいと思います。神様に感謝!

*西島恵さんは2023年度中等部グローバルウィークの礼拝において奨励をしてくださいました。

